**おおさかＱネット「受療行動」に関するアンケート　分析結果の概要**

資料３

**《回答者のフェイスシート》**

**◆性年代**

20～60代以上の府民各年代男女100名ずつ、計1,000名

　（但し、60代以上については、60～74歳、75歳以上、男女50名ずつ）

**◆居住市町村**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **市町村** |  **(%)** |  | **市町村** |  **(%)** |
| 大阪市 | 34.2 |  | 藤井寺市 | 1.2 |
| 箕面市 | 1.3 |  | 羽曳野市 | 0.8 |
| 池田市 | 1.4 |  | 富田林市 | 0.8 |
| 豊中市 | 5.4 |  | 河内長野市 | 1.0 |
| 能勢町 | 0.0 |  | 大阪狭山市 | 0.8 |
| 豊能町 | 0.1 |  | 太子町 | 0.1 |
| 吹田市 | 5.5 |  | 河南町 | 0.0 |
| 茨木市 | 3.6 |  | 千早赤阪村 | 0.0 |
| 摂津市 | 0.5 |  | 堺市 | 7.8 |
| 高槻市 | 4.9 |  | 高石市 | 0.7 |
| 島本町 | 0.4 |  | 和泉市 | 1.7 |
| 枚方市 | 4.6 |  | 泉大津市 | 0.6 |
| 交野市 | 1.1 |  | 忠岡町 | 0.0 |
| 四條畷市 | 0.6 |  | 岸和田市 | 2.0 |
| 大東市 | 1.3 |  | 貝塚市 | 0.4 |
| 寝屋川市 | 2.0 |  | 泉佐野市 | 0.7 |
| 門真市 | 1.1 |  | 田尻町 | 0.0 |
| 守口市 | 1.9 |  | 泉南市 | 0.6 |
| 東大阪市 | 4.3 |  | 阪南市 | 0.8 |
| 八尾市 | 3.5 |  | 岬町 | 0.1 |
| 柏原市 | 0.6 |  | 熊取町 | 0.5 |
| 松原市 | 1.1 |  |

**◆就業形態**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **形態** | **（％）** |  | **形態** | **（％）** |
| 正社員・正職員 | 36.9 |  | 専業主婦（夫） | 19.2 |
| 契約社員・派遣社員 | 6.7 |  | フリーター・無職 | 13.0 |
| パート・アルバイト | 12.5 |  | 学生 | 2.6 |
| 自営業・自由業 | 6.6 |  | その他 | 2.3 |
| 家内労働者・在宅ワーカー | 0.2 |  |

**《分析結果（サマリー）》**

・かかりつけ医、歯科医、薬局（以下、「かかりつけ医等」という。）の有無と、定期健診の受診、健康への関心度、お薬手帳の活用状況及び紹介による他の医療機関の受診状況には関連があることから、かかりつけ医等は、日常的な健康管理や服薬管理、専門医療機関などへのつなぎ機能を果たしていると言える。

・風邪に関するかかりつけ医を決めている・だいたい決めている人は65.7%。

慢性疾患に関して、かかりつけ医を決めている人・だいたい決めている人は95.0%。

かかりつけ歯科医を１か所に決めている人は61.8%。

かかりつけ薬局を１か所に決めている人は48.2%。

慢性疾患のある人の41.3%がかかりつけ薬局を決めていない。

受診時に、常にお薬手帳を一冊にまとめて持参している人は38.5%。

・仕事、家事、育児等の負担が大きくなると推測される30～40代や、慢性疾患がない層がかかりつけ医等を決めていない割合が高い。

・また、そもそも受診しないなど、医療機関の受診を身近に感じていない人も一定いる。

・日常生活圏内に医療機関・薬局が数多くある人の方が、かかりつけ医等を決めている人の割合が高かったが、かかりつけ医を除き、統計的な有意差は確認できなかった。

・重複投薬などのきっかけとなり得る、他の医療機関の受診状況について、「医師から紹介を受けて」、或いは、「緊急で受診の必要があるとき」に他の医療機関を受診する割合は、かかりつけ医等を決めている人やお薬手帳を活用している人の方が高い。

・一方、「他の医師の判断を聞くため」に他の医療機関を受診する人は、かかりつけ医等の有無に関係なくいる。また、その際、他の医療機関の受診状況を、医師への遠慮などから医師には言わない人が多くいる。

また、風邪で受診する場合の他の受診状況を伝えるかについても、同様の傾向。

※複数回答の設問など、一部については、統計的な有意差を検証するための検定（カイ二条検定）を実施していない。

**おおさかＱネット「受療行動」に関するアンケート　分析結果（詳細）**

※ページ番号は、「集計結果」の該当ページを示す

**Ⅰ．かかりつけ医・歯科医・薬局（以下、「かかりつけ医等」という）の意義**

**＜日常的な健康管理＞　P.31～P.35**

**○かかりつけ医等を決めていることと、定期健診など健康管理の度合いには関連がある。**

**○かかりつけ医等を決めていることと、健康への関心度には関連がある。**

・「２～３年に１回以上、健診を受けている」人の８割以上はかかりつけ医（風邪）を決めているが、健診を「受けたことがない」人については７割未満にとどまる。かかりつけ歯科医も同様の傾向（63.9%→57.4%）

・「自身の健康に関心のある」人の８割以上はかかりつけ医（風邪）を決めているが、「健康に関心がない」人については約６割にとどまる。かかりつけ歯科医（70.5%→57.6%）、薬局（52.0%→40.7%）も同様の傾向。

**＜服薬管理＞ P.26**

**○かかりつけ医等を決めていることと、お薬手帳の活用状況には関連がある。**

・かかりつけ医（風邪）、歯科医、薬局を持つ人のうち、「常に１冊にまとめてお薬手帳を持っていく」人の割合は、それぞれ42.9%、42.1%、43.8%だが、かかりつけ医等を持たない人では、それぞれ20.0%、27.2%、29.0%に留まる。（お薬手帳の普及状況については後述）

**＜専門医療機関等、他の医療機関へのつなぎ＞ P.37～P.40**

**○かかりつけ医等を決めていることにより、医師の専門的な判断による適切な医療機関の受診につながっている。**

・「医師から紹介をうけて」他の医療機関を受ける人の割合は、かかりつけ医（風邪）がある場合は51.0%だが、かかりつけ医（風邪）がない場合は、32.2%に減る。

・「緊急で受診する必要があるとき」も同様の傾向（33.7%→21.1%）

**Ⅱ．かかりつけ医・歯科医・薬局等の普及状況**

**＜かかりつけ医（風邪）＞　P.2～P.12、P.28**

**○かかりつけ医を「決めている」「だいたい決めている」人は65.7%。**

**○仕事、家事、育児等の負担が大きくなることが推測される30～40代や、長く付き合う持病（慢性的疾患）がない層が、かかりつけ医を決めていない傾向にある。**

**○「受診しない」、「めったに医療機関に行かないため、かかりつけ医を決めておく必要性を感じない」人など、医療機関の受診が身近でない人が一定数いる。**

・「決めている」30.8％、「だいたい決めている」34.9%、「決めていない」16.0%。

・慢性疾患を有する人の92.2%が、有しない人の77.6%が、風邪のかかりつけ医を決めている。

・かかりつけ医を「決めていない」人は、30、40代などに多く見られる。

・「決めている」理由は、「交通の便などの通いやすさ」が最も多く、続いて、「医師等が信頼できる」、「なじみがある」、「専門医療機関への紹介」が多い。「交通の便などの通いやすさ」は、30～40代、「医師等が信頼できる」は女性、学生、「なじみがある」「専門医療機関への紹介」は高齢者で、それぞれ傾向が強い。

・「決めていない」理由は、「めったに医療機関に行かないため、予め決めておく必要性を感じない」が38.8%、「特に理由がない」25.0%、「その都度行きやすい医療機関を選ぶから」20.0%。

・医療機関が生活圏内に「数多くある」人は、かかりつけ医（風邪）を決めている割合が高い。

**＜かかりつけ医（慢性疾患）＞　P.2～P.12**

**○かかりつけ医を「決めている」「だいたい決めている」人は95.0%。**

**○ごく一部であるが、かかりつけ医を決めていない、治療していない人がいる。**

　・「決めている」82.9%、「だいたい決めている」12.1%、「決めていない」3.0%、

「治療していない」2.0%

・「決めている」理由は、風邪の場合と比べ、「専門医療機関の紹介」や「評判がいい」の割合が高い。

・「決めていない」理由は、「ふさわしい医療機関が分からない」66.7%、「めったに医療機関に行かないため、予め決めておく必要性を感じない」、「その都度行きやすい医療機関を選ぶから」がそれぞれ16.7%　（サンプル数が少ないため参考情報）

**＜かかりつけ歯科医＞　P.13～P.17、P.29**

**○かかりつけ歯科医を一つに決めている人は61.8%。**

**○仕事、家事、育児等の負担が大きくなることが推測される30～40代が、かかりつけ歯科医を決めていない傾向にある。**

**○「歯医者に行ったことがない、分からない」という理由でかかりつけ歯科医を決めていない人や、そもそも受診しない人など、歯科医療機関の受診が身近でない人が一定数存在する。**

・「受診内容に関係なく、一つの歯医者に行っている」が61.8%、「受診内容に応じて、複数の歯医者に行っている」が5.6%、「決めていない」22.7%、「受診しない」9.9%

・かかりつけ歯科医を「決めていない」人は、30、40代などに多く見られる。

・診療内容は、「一つの歯医者に行っている」と「複数の歯医者に行っている」ともに、「痛み、腫れ、出血などがあるとき」、「歯が欠けたり、折れたりしたとき」、「過去に治療したところに不具合があったとき」が、それぞれ40～50％程度と高い。

・また、「一つの歯医者に行っている」人は、「複数の歯医者に行っている」人に比べ、「定期的に通う時期だったとき」が高い。

逆に、「複数の歯医者に行っている」人は、「一つの歯医者に行っている人」に比べ、「定期的に通う時期だったとき」の割合は低く、「歯や口の中をきれいにしたかったとき（歯石取り、ホワイトニング、矯正など）」が高い。

・「決めていない」人の診療内容は、「痛み・腫れ・出血などがあるとき」「歯が欠けたり、折れたりしたとき」、「過去に治療したところに不具合があったとき」が上位を占める一方、「分からない・歯医者に行ったことがない」が16.3%と高い。

・歯科医療機関が生活圏内に「数多くある」人の方が、「一つの歯医者に行っている」割合が高いことが見受けられるが、統計的に有意な差は確認できなかった。

**＜かかりつけ薬局＞　P.18～P.25、P.30**

**○かかりつけ薬局を１か所に決めている人は48.2%。**

**○仕事、家事、育児等の負担が大きくなることが推測される30～40代や、長く付き合う持病（慢性疾患）がない層が、かかりつけ薬局を決めていない傾向にある。**

**○慢性疾患がある人でも、かかりつけ薬局を決めていない人が4割余りいる。**

・「いつも決まった同じ１か所の薬局に行く」48.2％、「病院や症状ごとに異なる薬局に行く」48.6%、「その他」3.2%

・慢性疾患がある人で「１箇所に行く」は58.7%、「異なる薬局に行く」は41.3%。

慢性疾患がない人で「１箇所に行く」は48.0%、「異なる薬局に行く」は52.0%。

・薬局を選ぶ際に重視する点は、「１箇所に行く」「異なる薬局に行く」ともに、「処方を受けた医療機関に近い」、「自宅から近い」、「待ち時間が少ない」が多い。

・かかりつけ薬局を「決めていない」人は、30、40代などに多く見られる。

・薬局が生活圏内に「数多くある」人の方が、「１箇所に行く」割合は高かったが、統計的に有意な差は確認できなかった。

**＜お薬手帳＞ P.25～P.27**

**○お薬手帳を１冊にまとめ、常に持参する人は４割弱と少ない。**

**○かかりつけ医、歯科医、薬局を決めていない人の大半は、お薬手帳を常に１冊にまとめて持っていかない。**

**○医師に他の医療機関の受診状況を必ずしも伝えないという人は、必ず伝える人に比べ、お薬手帳を常に１冊にまとめて持っていかない人が多い。**

・「お薬手帳を１冊にまとめ、常に持参している」は38.5％、「時々持っていく」は12.3％、「複数冊を使い分けている」人は6.2％と少ない。

　 「お薬手帳はあるが持っていかない」「お薬手帳は知っているが、作っていない」人はそれぞれを18.2％、19.0%。

　 「お薬手帳を知らない人」は8.5%と少ない。

・かかりつけ医等を決めている人ほど、お薬手帳を活用している一方、かかりつけ医等を決めていない人で、「お薬手帳を常に１冊にまとめて持っていく」人は20%前後にとどまる。

・風邪や慢性的疾患で受診する際に、医師に別の病気での他の医療機関の受診状況を「必ず伝える」人ほど、「伝えるときと伝えないときがある」「聞かなければ伝えない」「伝えない」人と比べ、「お薬手帳を常に１冊にまとめて持っていく」人の割合は高い。

・なお、他の医療機関を受診する人の方がお薬手帳を活用している。

**Ⅲ．他の医療機関の受診状況　　P.36～P.46**

**○「医師から紹介を受けて」、「緊急で受診する必要があるとき」に 他の医療機関を受診する人は、かかりつけ医を決めていたり、 お薬手帳を活用している人が多く、比較的、特定の医師や薬局が、患者の他の医療機関の受診状況を把握しやすい状況にある。**

**○「他の医師の判断を聞きたいとき」に他の医療機関を受診する人は、かかりつけ医の有無に関係なくいるが、その際、医師への遠慮や 医師の診察の妨げになると思うなどの理由で、医師に他の医療機関での受診状況を必ず伝えない人がいる。**

**○風邪で受診する際に、別の病気（眼科、耳鼻科、整形外科など）の受診状況を医師に必ず伝えない府民も多く、伝えない理由は、 「診察を受けている病気とは関係ないと思うから」など、患者側での情報の取捨選択が行われている。**

**○他の医療機関の受診状況を医師に伝えない人は、お薬手帳も活用していない人が多い。**

**＜ある病気で一つの医療機関を受診した後、さらに別の複数の医療機関を受診すること＞**

・「医師から紹介を受けて」受診することが、「よくある」「たまにある」は32.8%、「ない」は38.8%

「緊急で受診する必要があるとき」に受診することが、「よくある」「たまにある」は20.1%、「ない」は32.9%

「他の医師の判断を聞きたいとき」に受診することが「よくある」「たまにある」は19.2%、「ない」は31.1%

・上記の３つのケースともに、「医療機関を受診することがほとんどないため分からない」人が30%程度いる。

・かかりつけ医との関係では、「医師から紹介をうけて」、「緊急で受診する必要があるとき」に他の医療機関を受診する割合は、かかりつけ医（風邪、慢性疾患）を「決めている」人の方が高い。（再掲）

（「他の医師の判断を聞きたい」ときは、かかりつけ医の有無によって差はなかった）

・なお、他の医療機関を受診する人の方がお薬手帳を活用している。（再掲）

**＜「他の医師の判断を聞きたい」ために他の医療機関を受診する際、他の医療機関での受診状況を医師に伝えるどうか＞**

・「必ず伝える」35.4%、「状況によって、伝えるときと伝えないときがある」44.8%、「聞かれなければ伝えない」14.6%、「伝えることはない」5.2%。

・伝えない理由は「医師への遠慮」29.0%、「医師の正しい診察の妨げになると思う」26.6%、「伝えても参考にならないと思う」21.8%

・風邪や慢性的疾患で受診する際に、医師に別の病気での他の医療機関の受診状況を「必ず伝える」人ほど、「伝えるときと伝えないときがある」「聞かなければ伝えない」「伝えない」人と比べ、「お薬手帳を常に１冊にまとめて持っていく」人の割合は高い。（再掲）

**＜風邪や慢性疾患で受診する際、別の病気（眼科、耳鼻科、整形外科など）の受診状況を医師に伝えるかどうか＞**

・風邪で受診する際は、「必ず伝える」24.1%、「伝えるときと伝えないときがある」37.8%、「聞かれなければ伝えない」28.0%、「伝えることはない」10.0%

・慢性疾患で受診する際は、「必ず伝える」が44.1%と多いが、「伝えるときと伝えないときがある」33.8%、「聞かれなければ伝えない」16.9%、「伝えない」5.1%と続く。

・伝えない理由としては、風邪、慢性疾患ともに、「診察を受けている病気とは関係ないと思う」が42%余りと最も多く、「特に理由はない、わからない」が30%前後と続く。

また、「医師の正しい妨げになる」「自分が言わなくとも医師は知っていると思う」「伝えても参考にならないと思う」「医師に対して遠慮する」はそれぞれ5～10％程度あるが、慢性疾患の場合は風邪の場合と比べ、「自分が言わなくとも医師は知っていると思う」が多く、「伝えても参考にならないと思う」が少ない。